行政評価シート（事務事業評価）

評価年度	28年度

事業名	観光振興事業	担当課	商工観光課
細分化した事業名			

1 計画（PLAN）：事務事業の計画的位置づけ

第6次長期総合計画での目的体系	基本方向	魅力あふれるまちづくり
	政策	訪れる人に感動を与える観光業の振興
	施策	魅力ある観光施策の充実
関連する個別計画等		根拠条例等

2 計画（PLAN）：事務事業の概要

事業の目的	訪れる人に夢と感動を与える観光の振興を図る。
事業の手段	・各観光振興団体の活動により観光振興（誘客）を図るため、団体等へ負担金及び補助金を交付する。 ・市民はもとより、市外からの誘客を推進する地域観光イベント（ほたる祭り・かかし祭り・さくら祭り）を支援するため、補助金を交付する。 ・市民交流センター内に地域情報発信センターを設置して、観光案内や地元特産品（物産土産品）を販売するなど、韮崎の魅力を情報発信する。
事業の対象	県関連観光協議会や市観光協会、地域の観光振興団体。

3 実施（DO）：投入費用及び従事職員の推移（インプット＝費用＋作業）

		25 年度	26 年度	27 年度
A 事業費	（千円）	15,996	17,102	17,666
財源内訳	国・県支出金			
	その他（使用料・借入金ほか）			
	一般財源	15,996	17,102	17,666
B 担当職員数（職員 E）	（人）	0.7	0.7	0.65
C 人件費(平均人件費×E)	（千円）	4,543	4,724	4,365
D 総事業費(A+C)	（千円）	20,539	21,826	22,031
主な事業費用の説明	各種観光団体補助金、地域情報発信センター指定管理委託料、市外発信型観光イベント補助金			

注）平均人件費は各年度決算額(職員給与費)から算出した 25 年度(6,491 円),26 年度(6,794 千円),27 年度(6,715 千円)を使用しています。

4 実施（DO）：事業を数字で分析（アウトプット＝事業量）

		指標名	指標の算出方法	実績値 25 年度	26 年度	27 年度
活動指標	1	負担金交付団体数	団体	10	11	9
	2	補助金交付団体数	団体　市外情報発信型含む	4	4	5
	3	指定管理委託数	施設	1	1	1

妥当性		□ A 妥当である　■ B ほぼ妥当である　□ C 妥当でない
上記活動指標と妥当性の説明	1	各種運営協議会や推進協議会への分担金・負担金であり妥当である。
	2	訪れる人に感動を与え、観光客数の増大を図るためには、様々な観光振興事業を行う観光協会や、主体的に観光イベントを行う地域への補助金は必要であり、妥当である。
	3	行政にはない、民間的発想を活用するため、地域情報発信センターの指定管理者による管理運営は妥当である。

5 評価（CHECK）： 事務事業評価 （アウトカム＝成果・効果）

		指標名	指標の算出方法	実績値		
				25 年度	26 年度	27 年度
成果指標もしくはまちづくり指標	1	観光入込客数	人　観光資源別推計値	50,3741	506,149	578,992
	2	地域情報発信センター来客数	人	80,025	74,205	75,411
	3					

成　果		■ A 上がっている　□ B ほぼ上がっている　□ C 上がっていない
上記指標の妥当性と成果の内容説明	1	大村博士のノーベル賞受賞効果により、１０月以降観光客が大きく増加した。
	2	２５年度は国文祭などにより多かった。１と同様の理由により、昨年は市民交流センターを訪れる観光客も増加したと思われる。
	3	

事務事業総合評価	■ A 期待以上に達成　□ B 期待どおりに達成　□ C 期待以下の達成

6 改善（ACTION）：今後の事務事業の展開

今後の事業展開	□ 拡大（コストを集中的に投入する）　■ 一部改善（事務的な改善を実施する） □ 全部改善（内容・手段・コスト・実施主体等の見直しが必要）　□ 縮小（規模・内容を縮小、又は他の事業と統合する） □ 廃止（廃止の検討が必要）
事務事業の改善案	改善の概要・方向性（いつまでに、どういう形で具体化するのか） 28 年度の改善計画（今後の事業展開説明） ノーベル賞受賞の効果を一過性のもので終わらせないよう、幸福の小径や大村美術館と連携し新たな観光スポット(周遊ルート)の創設などに取り組む。 情報発信センターは、指定管理者の変更及び施設一部改修により、集客・売り上げの向上を目指す。
過去の改善経過	平成２３年９月　市民交流センター内に情報発信センター開設。（駅前観光案内所を移設）指定管理者による管理委託。 平成２３年度から市外発信型イベントに補助金（７０，０００円×３地区）を交付。 平成２７年度より１地区７０，０００円⇒９０，０００円に増額。
課長所見	韮崎市名誉市民・大村智博士のノーベル賞受賞以降続く、観光を含む本市への追い風を一過性のものとしないためにも、コストを集中的に投入するなどの方法により、さらなる魅力の向上に努めていく必要がある。